



NO.470

平成8年10月1日

発行

〒869-1217

熊本県菊池郡

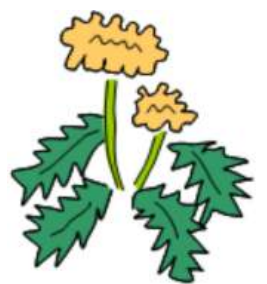
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



『道しるべを指して』

理事長 松田 健

の1紙おむつを使用されている男性利用者さんの担当ということとトイレトレーニングを行う際、排尿やおむつ交換の確認などで、異性介助を頻繁に行っています。男性職員が一人ということや当直（一人勤務）の時などはどのようにするのがよいのでしょうか？

A1「知的障害者施設職員行動規範」の「禁止事項」にあるように、基本的には同性介助を守らなければなりません。しかし、ご質問のように施設によって職員配置等でも変わって異性介助をしなければならない状況は少なくないかと思えます。ただし、その状況に甘んじることなく、異性介助をしなくて済ようなシステム（職員配置等）の構築を模索し続けることが必要だ

と思います。また、そのような状況になり得た場合は、利用者の方に一言断りを入れ、申し訳なさが気持ちをもって対処することが望ましいと考えます。前述のトレーニングは、担当という責任と、立场上の問題で、男性職員に頼みづらいこともあるかと思いますが、やむを得ない状況ではない限り、同性の職員の対応が望ましいと考えます。

Q2職員と利用者本人が信頼し合って「○○ちゃん」と呼んでいても、他の人から見たら子ども扱いしていると受け取られることもあります。お互い納得していても職員は「○○さん」と呼ぶ方がいいのでしょうか。

A2信頼関係が出来ている支援者が「○○ちゃん」と呼べば、新人はそれを見て「○○ちゃん」と呼ぶのではないのでしょうか。良いことも悪いことも新人は上司

を見て育ちます。大事なお客様の為、利用者の尊厳の為、そして後世を担う後輩の為にも呼称を変えることが望ましいと思います。たかが呼称ですが、呼び方でその後の言葉遣いが変わります。「○○ちゃん」と呼べばその後に関わる言葉は幼い子どもに話すような言葉遣いになり、「○○さん」と相手を敬う呼び方をすれば、その後に関わる言葉も丁寧な言葉になります。そういった視点でも呼称は軽視できないものです。

Q3「命令調や大声で叱責したことが」あります。いかなる場合でもダメでしょうか。

A3福祉の仕事は命を守る仕事でもあり、車が通る道に利用者さんが衝動的に飛び出そうとした場合はどうでしょうか。大声をあげることで行動を止めることができるなら、命を救ったこ

とになります。しかし、大声で行動がコントロールできたという経験から日常化することはないでしょうか。いつしか配慮する手間暇を惜しむことにつながらないでしょうか。

利用者支援を行う中で、利用者さんがパニックをおこしたり、興奮して自分や他人に危害を及ぼしたり、物を壊したりなどの危険を回避するための手段として行動上の制限はあり得ることである。ここでの問題は、そのような行動上の制限が合理的な理由に基づき、他にとるべき方法がなく、必要最小限のものであり、さらにそれを本人や家族に説明してあり、精神科等の医師等の専門家の意見を聞いた上で行っているか、ということである。このような手続きを経ずに施設や職員だけの判断で行動を制限していないか、点検していく必要があるかと思えます。

（『道しるべ』改訂版より引用、一部抜粋・修正加筆）





1班「準備からみんなで楽しむことができた」

9月19日、グループホームにてイベント食に参加させて頂きました。内容はバーベキューで夏野菜を焼き、カレーにトッピングして食べるといったものでした。炭を使用するため、担当スタッフが朝からグループホームの駐車場で準備をされていました。Aさんは準備の様子を窓から眺めて、にこにこ笑顔が見られていました。「楽しみです」と声をかけると「バーベキュー！」と答えられ、また笑顔で眺められていました。野菜の準備の際にトウモロコシの下処理をしている所をBさんがずっと見ていましたので「お手伝いにいきますか？」と声をかけると、「はい！」と答えられ、笑顔で皮やひげをとるお手伝いを笑顔で取り組まれていました。昼食ではカレーを持って、焼いた野菜をカレーに乗せ美味しそうに食べられていました。利用者のみなさんと一緒に準備からでき、楽しんでいたのを見て、今後自分自身もみんなで楽しめるようなイベントや、レクリエーションを考えていきたいなと感じた1日でした。

支援員 菅原恵太

2班「笑顔ではたらく、笑顔で味わう」

2班に所属している利用者の皆さんが、取り組んでいるフルーツネットの作業。それぞれ、皆さんが取り組みやすいように工夫する中で、毎日、一生懸命頑張る姿には毎回感心させられます。そんな中、2班では半期に一度（9月、3月）、「おつかれさま会」という名目の元、その日は少し特別感のあるお弁当などを準備して、日頃の頑張りをねぎらう場を設けています。元々はコロナ禍に、イベント等を行う事が難しかった状況の中、何か皆さんにとって楽しみを作ることができないかというスタッフの想いから始まっており、それが今も続いています。

利用者の皆さんを支援する中で、余暇支援を充実させる事は大切な事だと言われています。楽しみがある事で、生活の中にメリハリができ、日々の作業をしっかり頑張る事ができていくようになるのだと感じます。

美味しい物を食べる、皆さんの表情はとびきりの笑顔です。時には、ゆっくりとリラックスして、楽しみのある時間をつくる中で、皆さんと共に笑い、共に頑張る事ができていくようになるように、今後もサポートしていきたいと感じています。

支援員 渡部 聡

3班「セラピー」

入社して5年目になりましたが、支援についてはいまだに分からないことの連続で悩みの尽きない毎日です。そんな疲れ切って帰ってくる私を、毎日飛び跳ねて迎えてくれる娘も、もうすぐ2歳。不思議なもので娘の顔を見ると一瞬で疲れが吹き飛び、それまで乱高下していた私の情緒も平穏を取り戻します。そんな娘ですが、興奮すると自己コントロールが難しくなり、飛び跳ねたり、唸ったり、噛んだり。ここ数ヶ月、自分でコントロールできるように試行錯誤していますが、つい甘やかしたくなる場面でも「今は我慢」と自分に言い聞かせています。「のん気、こん気、げん気」。三気の里で覚えたこの言葉がプライベートでも教訓になっています。

ここまで読んで「娘さんなかなか元気だな」と思われた方もいるかもしれませんが。実は私の娘は愛犬「リン」です。そんなリンから毎日セラピー効果を受けている私ですが、利用者の皆さんにも同じような「癒し」を提供できたらと思う今日この頃。ただアラフォーのおじさんには癒しは無理でも、少しでも癒しを感じられる時間を提供できるように、これからも考えていきたいと思います。

支援員 田淵晃一

5班「普段の創作活動を活かして★」

私たちは、9月24日にレクリエーションに行ってきました。今回はスターアートさんでクマのキーホルダーに色付け体験、昼食はDining café 106さんでランチを食べました。創作活動でよく絵具は触っている皆さんですが、たくさんある中から自分の好きな色を3色選び、そのままクマにかけるといいう活動でした。流れていくペンキが混ざり合いすごく面白いようで、皆さん目をまん丸にして見られていました。スタッフもこのような体験は初めてで、すごく楽しかったです。ランチは事前に写真や文字を見て頂き、選んでもらいました。自分が選んだメニューが目の前に運ばれてくると嬉しそうな表情をされ、普段とは違う空間での食事を楽しまれていました。完成したキーホルダーはそれぞれ個性が出ていて、世界に一つだけの作品になりました。今回のレクリエーションを通して皆さんの新しい表情や楽しみ方を知ることができ、私たちスタッフにとっても嬉しい一日になりました。

支援員 玉永 咲希



GH「高森でランチしてきました」

8月1日GHはじめの方8名全員揃って高森駅近くのレストラン《花門》でランチを楽しんできました。おかずはサーモンのムニエル、ポークピカタなど全部で8品もあり皆さん美味しそうに完食されていました。

ランチの後は高森駅でワンピースの電車も見てきました。記念写真も沢山撮りました。しばらく車で移動をして白川水源に到着です。流石名水百選に選ばれるだけあり湧水が透き通っていてとても美しく、緑の木々に覆われて随分涼しく、まるでジブリの森のようでした。

帰りの道中で、ソフトクリーム屋さんに寄り道をしてミルクソフトクリームを各自注文されて、思いっきり夏を楽しんできました。車中でウトウトされる方、帰ホーム後リビングでウトウトされる方など皆さんお疲れの様子でしたが、楽しい思い出になっていれば幸いです。

また次回も様々なイベントを企画して、楽しい時間を一緒に過ごしたいと思います。

お楽しみに！

GH世話人 田畑仁美

アンパ

『毎週水曜日は…』

支援員 黒澤加代子

アンパでは、『アンパを知っていただく』『一緒に楽しんでもいただく』企画として、毎週水曜日（14:00～16:00）に様々な活動を行っています。もちろん他の日も利用される方達の要望を取り入れながら活動していますので、ぜひご連絡、ご参加ください。

○第1水曜日：大津町社会福祉協議会にて創作活動やゲーム

○第2水曜日：オークスプラザにて創作活動やゲーム

○第3水曜日：アンパにて地域の方達とおやつ作り

○第4水曜日：三気の里にて歌やベル演奏

※お喋りだけでもOKです😊

※連絡先

096-294-8288

（地域活動支援センターアンパ 弓削、黒澤）

あやつ作り



陶芸干支作り



クレイクラフ



キッチンカー

9月26日の昼食では、キッチンカーに来てもらいました。利用者のみなさんと、カレーとホットドック、ピサを選んでもらいます。デザートでは、芋ソフトを食べてもらいました。美味しそうに食べてもらうことができました。



療育雑記

「因」と「果」を考える

主任支援員 高橋一精

三気の里では、普段から事故防止に努める上で、危険性がある事例に気付いたら「ヒヤリハット報告」で周知し、それらを危機管理委員会で検証し、対策を講じています。突然ですが事例

①「洗濯物を整理する棚を動かそうとした際、突然キャスターが壊れて、棚が倒れた。」ということがあったとします。「突然、棚が倒れる」ことが万が一にも無いとは言い切れません。しかし、事前に壊れかけている箇所がないか確認し、倒れないように慎重に動かそうと意識しておけば未然に防げたかもしれません。そう考えると「棚を動かそうとした際に、事前の確認不足や勢いよく動かしたことで棚を倒してしまい、利用者さんに怪我をさせてしまう可能性のある行動をとってしまった。」

という事実気付かれます。また、それを踏まえて行動していれば「棚を動かす前にキャスターの点検を試みたところ、車輪のネジが外れかけていたので、締め直して移動させた。」という結果に繋がっていたかもしれません。

また、三気の里では毎月ケース検討会を行なっています。そこで事例②です。「余暇時間、プレイルームで過ごしていたAさんが、突発的に自傷行為を始めました。」ということがあったとします。前提として、Aさんがどんな人かしっかりとアセスメントし、特性を理解した上で不穏にならないような環境を整えておくことが第一義的な支援だと思っています。しかし正直、上手くいかない場合も少なからずあります。そんな場合、まずプレイルーム内はどんな環境だったのか？騒々しかったのか、静かだったのか？騒々しければ、何の音(誰の声)に反応してしまったのか？室温はどうか？湿度や天気はどうだったか？また、そ

の場の状況に限らず、最近嫌いな食事メニューは無かったか？日課やイベントなど伝えていない変更などは無かったか？Aさんの気持ち(行動)は「要求」「注目」「回避」「感覚」などのどれから来るものなのか、過去の記録(現場では記憶)とも擦り合わせながら整理して行くことで未然に防ぐことができたかもしれません。そう考えると、「不穏に至るまでの原因や前兆に気付かず、配慮もしなかったことで、自傷行為を表出させてしまった。」という事実気付きます。そして、それらを踏まえると「余暇時間、クーラーが故障して蒸し暑く、周囲の利用者さんも普段より騒々しかった。Aさんに事情を説明して、他の涼しい部屋で過ごしてもらった。普段過ごす場所と違うことで、ソワソワした様子が窺えたが、好きなパズルを提供すると、笑顔で過ごすことができていた。」という結果に繋がるかもしれません。Aさんを理解したつもりでいても、現場では毎日違うそ

の場の状況に合わせ、瞬時に判断を迫られます。だからこそ応用行動分析で支援を「見える化」したり、TEACCHプログラムで「構造化」の知識を高めておくこと、そしてその支援の根拠となる日々の記録がより重要なことだと改めて痛感します。偏った考えかも知れませんが、物事には「因」と「果」が必ずあります。ただ因を説明するだけが私達の仕事ではありません。しかし、まずは因を追及・分析・反省することが第一歩だと思います。「棚を倒してしまう」、またはAさんを「突然自傷行為をする人」にしてしまうか…。気付きや配慮をすることで「棚を安全に使い、安心な生活が送れる」、または「Aさんを穏やかに過ごせる人」にするかは私たち次第だと言えます。だからこそ物事の因を「見抜く目」を養い、それらを「表現力」を高め、それらをより良い果に繋げるための「実行力」を身に付けなければならぬと感じています。

10月スケジュール

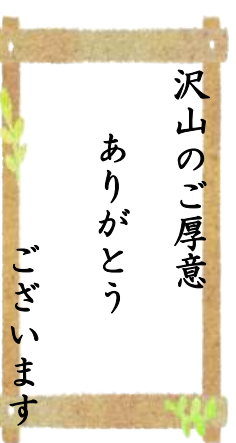
01(木) ドーナツの日
02(金) 大津町健診(～6日)
03(土) わっふる講演会
08(木) ゴールドクラブ
10(土) 運動会
13(火) 意見・苦情報告会
14(水) 2班レク
15(木) 嘱託医来診
16(金) リハの日
18(日) 大津福祉まつり

19(月) 歯科実習
20(火) 皮膚科Dr.往診
24(土) 保健師指導・eスポーツの日
26(月) ふれあい動物園(サービス理容室)
27(火) 避難訓練
28(水) 音楽の日・1班レク
毎週月曜日 訪問理容サービス
毎週水曜日 BeTREE役場販売
BeTREE
＜営業時間＞9:30～17:30



佐藤 由美子様
田中 基幹様 佐々木 智征様
木庭 友子様 森川 琇介様
亀崎 和子様 中村 秀隆様
田中 慶秀様 亀崎 幸久様
【後援会ありがとうございます】
上田 タキ子様 伊石 ナナエ様
東坂 富士代様 井上 ちえ子様
井上 優様 井上 昌子様
中嶋 久枝様 金森 保様
井上 律子様 赤星 央子様
米村 秋江様 坂梨 清美様
松村 俊介様 米田 孝一様
田中 満子様 中村 秀隆様
櫻木 勇夫様 渡邊 正司様
魚谷 秀文様 清田 栄一様

【寄付】
宮本 眞一様 櫻木 勇夫様
清田 栄一様 松村 俊介様
國本 陽子様 岡崎 範子様
井上 昌子様



朝夕は少しずつ涼しくなり、秋の訪れを感じる季節となりました。日中との気温差も大きくなってきていますので、体調の管理に気をつけながら、今月も元気に過ごしていきたいと思ひます。秋は、「食欲の秋」「スポーツの秋」「芸術の秋」など、さまざまな楽しみがある季節です。三気の里でも、運動会などがあり、施設での活動を通して、利用者の皆様がそれぞれの「秋」を楽しみ、笑顔で過ごせるようにしたいと思ひます。

自分のことではありますが、子どもの運動会があり、親子徒競走などでは、子どもに恥ずかしくないような走りが出るか、不安でこっそり練習をしています。日頃から運動をすることが大事であることを気付かされている日々です。

中村 圭助

編集後記